

水辺の 生物



ガムシ (牙虫)

コウチュウ目ガムシ科

写真提供：(財)自然環境研究センター

ガムシ科の甲虫は世界で2,100種、日本からは84種が記録されている。ガムシ (*Hydrophilus acuminatus*) は、国産種の中では最大(体長約3.5cm)で、全体は緑がかった光沢のある黒色をしている。体は楕円形で腹面中央に1本の鋭い剣状の突起があり、これが牙虫の語源と言われている。

水生植物の茂る池や沼にすみ、6本の脚を歩くように動かしながら泳ぐ。成虫は草食性で、腐った藻や水草などを食べる。夜間、灯火によく飛来する。

幼虫は肉食性で、他種の昆虫や巻貝などを捕食する。体は細長く、3回脱皮して終齢幼虫(体長約7cm)となり、次いで水から上がり、湿った土中に小室をつくってサナギになる。年1世代で成虫態で越冬する。

産卵は5,6月ごろ、メス成虫が水面に浮かぶ草の葉に絹糸様のさやをつくり、その中に50~100個の卵を産む。そのゆりかごの一端には煙突状の突起があり、そこから空気を取り込む仕組みになっている。幼虫は17日前後でかえる。

ガムシは日本全土および朝鮮半島、中国、東南アジアなどに広く分布する。日本では近年、全国的に個体数が激減してきた。これは池沼の消滅、水質の汚染などによる。東京都ではCランク(国の「希少種」に相当)に表示されている(1998年)が、現状はより深刻化していると思われる。

取材協力：小西正泰氏

参考文献：『日本動物大百科』10昆虫Ⅲ 日高敏隆(監修) 平凡社 1998年

『水生昆虫』小学館の学習百科図鑑45 中山周平・矢島稔(監修・著) 小学館 1985年

『東京都の保護上重要な野生生物種』1998年版 東京都環境保全局 1998年